課題別研究会「進路保障」の取組の観点
［研究協議の柱］

（令和８年度）

子どもと向き合う教職員の姿勢について

○　子どもを深く理解するために、子どもの思いに寄り添えているのか交流しましょう。

○　子どもの思いや願い、悩みなどを捉えることを出発点として、「進路（育ち）」や「学力」を保障する取組につなげているのか交流しましょう。

～Ｍｏｍ（モム）：「見つめる」「思いをめぐらす」「向き合う」ことを通して～

- 子どもが、どんな暮らしの中で、どのような育ちをしてきたか。
- 子どもが、どんな思いで学校に来ているか。
- 子どもが、授業にどんな願いをもっているか。
- 子どもの保護者や子どもを取り巻く人たちの願いは何かをつかんでいるか。
- 子どものつまずきを、誰がどれだけ理解し、関わりを継続しているか。

関連　　関連

「生きる力」を育む学習と自尊感情の育成、差別を許さない仲間づくりについて

○　子どもたちが、互いに支え合う仲間としてつながり、仲間と共に自らの生活や進路をどのように切り拓いているのか交流しましょう。

○　子ども一人一人が、自己実現を果たすために必要な学力とは何か、また、その学力を仲間と共に身に付けていくための道筋を交流しましょう。

○　子ども一人一人の存在や思いを大切にする学校・学級づくりを通して、学校全体として子どもの育ちがどのように保障されているのか交流しましょう。

関連

家庭・地域・関係機関との連携及び学校間の連携について

○　子どもの育ちをつないでいくために、保育所、幼稚園、こども園、学校、家庭、地域（地域での学習活動の場を含む）、行政や児童福祉施設、児童自立支援施設等が、どのように連携を図っているのか交流しましょう。

○　「統一応募用紙」に込められた“差別をなくす”精神を具現化する取組について、学校や行政（公共職業安定所等）、企業等がどのように進めているのか交流しましょう。

○　全ての子どもの自己実現を支える奨学金制度や就学支援・就学援助制度等に関する取組の成果や課題について交流しましょう。

出席者それぞれが実践を出し合い、悩みや疑問を共有し
これからの実践につなげてきましょう。